

神奈川山梨教会連合会たより

## かりん

## 連合会と私

金光教神奈川山梨教会連合会

信徒部次長 大塚東子



私が初めて  
連合会活動に  
関わったのは、  
昭和56年の集  
会で意見発表  
をさせて頂い

た時です。もう40年以上も前のことになり  
ます。当時の信徒部役員には40代50代  
の働き盛りの方が多く、ただ御用として準  
備に当るだけでなく、会議の後には飲食を  
共にしながら、信心を向上させるにはどう  
すればいいのか、どうしたら金光教をもつ  
と元気に出来るのか、布教の実を上げられ  
るのか、どうすれば信心継承がなされてい  
くのか、というような、金光教を活性化す  
るための問題点を熱く議論していました。  
そういう先輩たちの熱意に引張られて、  
私も出来ないながら、集会に参加し、行事

のお手伝いをし、原稿を書き、意見発表し、  
時には司会をさせて頂いたりしたものでし  
た。

さまざまな体験は、それぞれが私の血肉  
になったと思うのですが、今振り返って最  
も勉強になったのは、『金光教を考える会』  
と題した会合に参加させて頂いたこととし  
た。近頃元気がない金光教、信奉者数や教  
会数が減少し、信心が継承されていかない、  
そういう現実に、私たちはどう向き合っ  
ていけばいいのか、具体的に何が出来るかを  
考えたい、と立ち上げた会でした。遠慮な  
く意見を出したいということで、会の参加  
者は信徒だけでしたが、報告会を開催し、  
先生方にもご参加頂き、それなりに問題提  
起をさせて頂けたように思います。吉田章  
一郎さん（神奈川教会）がリーダー役であ  
り、彼がまとめた労作が『金光教を考える  
会 報告書』として、今も手元に残ってい  
ます。その報告書の最後は、「『考える』こ  
とは、ひとまず終わったので、次はどう行動  
に現わすか、具体的な実践計画を目指した  
い」と結ばれているのですが、平成18年に  
発行されたあと、その後の進展はないまま  
今に至っています。

各教会では、おかげ話を中心にした、す  
でに金光教の信心をしている人のための教  
話を聴くことが多いです。連合会の集会で

は、なぜ信仰を持つのか、数ある宗教の中  
でなぜ金光教なのか、教祖様のみ教えをど  
う読み解くか、金光教の信心を外部の方に  
どう説明するか、布教のために一信者とし  
て何が出来るか等々、普段教会ではあまり  
話題に出ないようなことをテーマとして話  
し合ったり、お話を聴くことができました。

また、連合会では、一教会ではなかなか  
出来ないような、少し大きな行事、手間や  
お金のかかることを企画し、実行してきま  
した。歴代の連合会長を始め役員をお勤め  
下さった先生方には、貸しホールを借りて  
行事をしたり、一泊研修会をしたり、遠方  
の先生をお招きして講演会を催したりと、  
大変な努力をされました。そういう先生方  
のお手伝いをさせて頂くことは、親しくお  
話することであり、お人柄に触れることで  
あり、信心話やおかげ話を聴かせて頂ける  
機会になり、有意義かつ楽しい時間でした。  
他教会の信者さんと親しくなり、触発され  
たり、影響を受けたことも非常に多かった  
です。私自身は「連合会に貢献してきた」  
とはとても言えないのですが、間違いなく、  
「育ち合い」だけはさせて頂けたのかなと  
思うところです。連合会は私の信心生活の  
みならず、人生そのものを広く深く豊かに  
してくれた、と思えます。ただただ感謝あ  
るのみです。

## 「教師信徒研修会」をリモートで開催

去る3月16日(水)午後1時30分から4時40分まで、「教師信徒研修会」をZOOMによるリモートで開催、12教会より25名が参加しました。

今年、神奈川県山梨布教130年という記念のお年柄をお迎えしたことから、教師信徒研修会プロジェクトでは、テーマに「横浜布教の歴史に学ぶ」と題して、4名の先生からそれぞれのタイトルで講話を伺い、横浜布教について、横浜布教の歴史について、理解を深めさせて頂きました。ここに講話の内容をまとめて、報告致します。

### 講話① 「明治政府の宗教政策と東方伝道」

安達幸則師 (相模原)

東方伝道の発端は、教祖様の「西三十三か国はの方が広め、東三十三か国は此の方が広める」との布教精神を先覚先師が受け継いで、お道の信心が東方へと伝わって行った。

明治政府による宗教政策は厳しく、自由な布教は許されず、各地の出版社では度重なる取り締まりを受けた。明治19年、近藤藤守師が違警罪で拘留させられる事件が起き、その弁護に畑徳三郎師があたり、教祖の教えは邪教ではなく、正教であると説いて無罪を勝ち取り、畑師はその弁護を機に帝都東京に出て、世の中にこのお道を正しく理解してもらい、教えを広めることを決

意し、金光四神様から「ハヤカヤルガヨロシ」とのお言葉を受けて、明治21年3月25日に上京、5月21日四谷区伝馬町で東京布教に着手する。

一方、大場吉太郎師は近藤師の命を受け、畑師を助けるために明治21年暮に上京、翌年5月には烏森で取次にあたり、神道金光教会芝支所との認可を得て、芝布教に従事した。

しかし、支所への取り締まりは厳しく、閉鎖させられるという事件が起こった。佐藤範雄師らが、神道金光教会規約により東京府から認可されたにも拘らず、閉鎖するなど不当であると抗議、度重なる交渉により、明治26年礼拝が認められた。

また、明治24年には芝支所(金光さま・金光神として)に対する誹謗、中傷記事が朝日新聞に掲載される等、本教の教勢が伸張していく中に、明治政府の厳しい取り締まり、社会からの様々なる批判や圧力を受けつつも、明治33年には一教独立を果たしたのである。

### 講話② 「横浜布教端緒期の動向」

南清孝師 (登戸)

横浜布教の開始は、永楽町で芸妓置屋を経営していた田中つ氏が、三重県上野で信心に励んでいた貝増利兵衛氏から、お道の話の聞くうちに導かれて入信し、更に改式を願う出て、上野で布教に従事していた近藤伊三郎師を横浜に呼び寄せることとな

り、明治24年3月近藤師により、横浜市山田町にあった借家で布教が開始された。

ところが、横浜を東京布教の一部と考え、探していた畑徳三郎師、大場吉太郎師が布教場所を探していた折、近藤師の布教所を見つけ、どうして横浜に来たのかを尋ね、畑師は、「勝手な頼みであるが、この横浜は東京の手で布教したいので、引き取ってもらいたい」と告げ、近藤師も「横浜には好んで来たのではありません」と伝え、三重県上野に帰られてしまう。

その後、芝支所で世話係として御用に当たっていた福田助次郎師に、大場師から声がかかり、明治25年2月11日、近藤師が布教に従事していた山田町で、布教にあたることとなった。福

田師のおかげは目覚ましく、参拝者で家の外まで溢れ、三か月後には不老町に移転、「どんなことでもおかげが頂ける」と横浜中で大評判となり、『神道金光教会横浜支所』の認可を受け、神奈川県下で最初の教会所が横浜に設けられた。

当日の様子↓



## 講話③ 「福田助次郎師の信心」

山田信二師（横浜西）

福田助次郎師は、弘化2年8月13日大阪で生まれ、入信の時は、銀座で砂糖商を営んでいた。明治23年3月3日、妻なをの産後の体調不良が機縁で、芝教会にご縁を頂き、大場吉太郎師によるお道案内を受け、天地の親神に生かされて生きていることを知り、我情我欲の改まりをもって、おかげを受ける道であることを教えて頂いたと思われる。その日のうちに、赤ん坊の体調について、改まりの心から即座におかげを受け、以来夫婦ともに熱心に信心するようになり、助次郎師は、芝教会で世話係として御用するようになった。

明治25年2月11日、45歳の時、横浜での布教を開始する。大場先生の命を受けて、おかげを頂けなければ大場先生に相濟まないという御用精神、奇跡的なおかげが次々と起こり盛んになる。大場先生への尊敬と信頼が御用の根底にあった。

教会が盛んになる一方で、自分たちの生活はぎりぎりまで質素節約して、それが修行だったのだろう。広前は、山田町、不老町、蓬萊町、羽衣町と移り変わり、不老町時代に教会設立がなり、布教の最盛期であったという。

助次郎師は、明治39年8月13日帰幽する。これはかねて本人が予言していた通り、満60歳の誕生日だった。この間、助次郎師の教えを受けた加藤忠蔵師が小田原教会、増

田金太郎師が神奈川教会、さらに藤沢教会、喜多儀平師が甲府教会を設立した。

私の好きな助次郎師のご理解は、「毎日色々沢山にお願いに来られる中には、大きなことで浮身をやつしているのもあれば、また小さなことで浮身をやつしているものもある。ドウセ浮身をやつすのなら大きなことで浮身をやつして、大きなお蔭を受けた方がよかろう」私は、これは大きな信心の目的を持ってという意味だと受け止めている。この130年の節年に、この「大きなことで浮身をやつす」信心をさせて頂けたらありがたいと思う。



福田助次郎師

## 講話④ 「福田源三郎師の果たした役割」

村田光治師（子安）

福田源三郎師は、明治20年に生まれて、明治23年には福田家が金光教に入信、25年には父である助次郎師が横浜布教にあたる。明治37年に友人の死をきっかけとして金光教の教師を志し、39年に父である助次郎師が亡くなり、その葬儀の様子から教師への思いを強くして、父の下で出来ない信心修行を外に求め、明治42年東海から九州へと教会行脚に出て、求道を深め、当時担当者がいなかった神奈川教会に入信する。

父助次郎師の後を受けて、神奈川県布教に邁進というイメージがあるが、本人の回想した文章には、ハワイ行きに乗り気になつたことや、関東大震災後の焼け野原で、「布教も何もあるものか、どこか他地方へ行って布教するのだ」と考えたところ、信者に縋りつかれて目が覚めたことなど、20代、30代の頃は、こだわりはなかったようにも読み取れる。

連合会制度ができたころにはすでに50代後半、源三郎師が連合会に果たした役割とはどういうものか。最前線に立って引張っていくことはなかったようで、平塚教会の奥川達雄師は、昭和20年代の定期説教講師勉強会の様子を、「若い世代を自ら導いていくことはあまりなかった。むしろ、共に求めあうという姿勢、自ら求めていくものには真摯に對していくという姿勢であった」。「み教えの解釈を披露し合う会では、参加者の答えに喜々として耳を傾けておられた」と振り返って話していて、「昔（教団独立以前）の信心」を残すことについても、懐古主義ではなく、当時を知っている者として、一番純粹に神様を求めていた時代を記すことを自身の役割としていた。

長老教師と呼ばれる立場にあつて、上意下達とは違う形で自身の役割を果たしつつ、「共に求める」という態度をもって、御用に当たり、周りとの関わり合いを進めたことは、連合会活動の上にも大きな影響を与えたことと思われる。

(南清孝)

## 「地域交流会」が行われました

去る3月27日、神奈川県山梨教会連合会では、「地域交流会」を実施しました。

今年も、神奈川県山梨布教130年になります。そこで横浜布教に貢献された初代横浜教会長・福田助次郎先生の奥城に参拝した後、130年に亘る先師の方々のご苦労を偲びながら横浜教会ゆかりの地を、歩いて巡りました。

### ○さあ出発

朝10時、保土谷駅に各教会から19名が集まりました。体力に合わせて歩き隊、市営バス乗車隊、タクシー乗車隊に分かれて奥城のある横浜久保山墓地へ向かいました。歩き隊は、最年少参加の小学1年生が金光教旗をかざして先頭を歩き、久保山への急坂を上り、「四季の歌」を合唱しながら遠足気分で行進しました。

バス隊は乗車時間10分ほどで到着し、タクシー隊と共に全員合流して奥城参拝に向かいました。天気は上々で久保山墓地からは東京タワーと東京スカイツリーが遥か遠く眺められました。

### ○奥城参拝

奥城では、福田助次郎先生のご子孫である福田光一先生（神奈川県）の先唱で、祖先賛詞を全員で奉唱しました。福田光一先生のご挨拶では、教祖様の「万国まで残りなく金光大神でき」という日本中から世

界中に信心を伝えるとの願いを受けて、この横浜は先人たちが多く通られた重要な地であります。そのような地で私たちはしっかりと信心して信心の助かりを広く伝えて、あいよかけよの精神で助け合うことにより戦争のない平和な世の中を作りましょうと話されました。



### ○奥城から最初の横浜教会跡地「山田町」へ

奥城から山田町へは、バス乗車隊とタクシー乗車隊の二手に分かれて、山田町手前の山吹町公園で合流しました。ここからは、また金光教旗を先頭に山田町へ向かいました。山田町は2丁目12番地と記録があったので、地番が変わった可能性があるもので、現在番地で推定された場所で拝礼しました。

### ○山田町から二番目の跡地「不老町」へ

山田町では布教6か月で手狭となり、不老町に教会が移転しました。不老町の時代が横浜教会の最盛期と言われています。

不老町での所在地は2丁目167番地と記録がありました。現地を特定できずに不老町2丁目と表示された交差点にて拝礼しました。

### ○不老町から三番目の跡地「蓬萊町」へ

蓬萊町に移転後、横浜教会は大火の類焼で建屋は焼失しました。

蓬萊町の跡地についても、詳しい番地は不明で3丁目であったことが分かるのみでした。そこで蓬萊町3丁目のほぼ中心で拝礼しました。

### ○蓬萊町から最後の跡地「羽衣町」へ

羽衣町の跡地は、横浜大空襲で資料がほとんど無い中、かろうじて入手できた地図に金光教会と記載されていたおかげで、場所が関内駅前の一等地だったことが判明しました。現在はコインパーキングとなっていて、そこで一同拝礼いたしました。

羽衣町には広島の厳島神社の分社である厳島神社が現存しています。源頼朝の勧請により治承年間に創建された由緒ある神社です。荘厳な佇まいは、横浜大空襲で焼失したかつての横浜教会を彷彿とさせる感があり、ここでも拝礼させていただきました。この後、関内駅にて解散しました。

### ○おわりに

私たちの信心の拠り所の一つである大切な教会が戦火に見舞われて失われた歴史を顧みて、二度とこのようなことが起きないように願うと共に、同様な惨禍にあるウクライナの戦争が早く終結して人々が平和に暮らせるように祈念します。（高橋義吉）

### 金光教神奈川県山梨教会連合会

発行者 山田信一

横浜市泉区下飯田町926-23

〒245-0017 金光教横浜西教会内